

お天気ミニ知識

アメダスって何？



近畿地方は6月13日ごろに梅雨入りしたと見られるという発表があり、雨が気になる季節がやってきました。テレビの天気予報では予報士さんが毎日のように「各地のアメダスのデータを見てみましょう」と言って、雨の様子を教えてくださいます。

ところで、アメダスって何でしょうか？ さすがに「雨出す」ではないとは思われるでしょうが、そもそも実際にはどんなものなのでしょう。

アメダスとは、Automated Meteorological Data Acquisition System(自動気象データ収集システム)の略で、日本語では「地域気象観測システム」と呼ばれています。国内約1,300か所に設置されたアメダス観測所において気象観測を行っています。観測しているのは、降水量、気温、日照時間、風向・風速の4要素であるところが多いですが、寒冷地においては積雪の深さを観測していることもあります。アメダスによる緻密な観測網のおかげで各地の実況を知ることができ、天気予報の精度を高めることが可能になっています。

このアメダス、割合としては17km間隔ぐらい設置されているので、意外に身近な場所にあったりします。

写真1は大阪市内にあるアメダスです。大阪歴史博物館南側にある公園広場に設置されています。そうとは知らずに近くを通った方も多いことでしょう。ちなみに、ここにあるのは雨量計と温度計だけで、日照計は隣にある合同庁舎のビルの屋上に、風向・風速計は大阪城公園にある旧大阪歴史博物館の屋上に設置されています。



写真1 大阪歴史博物館前

また、写真2はかわべ天文公園にあるものです。天文台には友の会の合宿で行ったことがある方もおられると思いますが、アメダスがあったことに気づかれたでしょうか。今度、探してみてください。

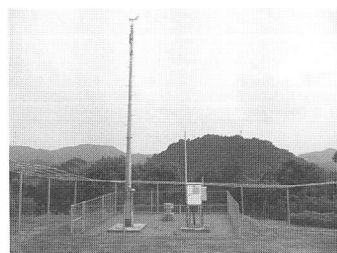


写真2 かわべ天文公園

なお見学する場合は、柵の外から見るようにしましょう。機器を壊したり観測を妨害したりした場合は、気象業務法により3年以下の懲役若しくは100万円以下の罰金に処せられますので、ご注意ください。

江越 航(科学館学芸員)